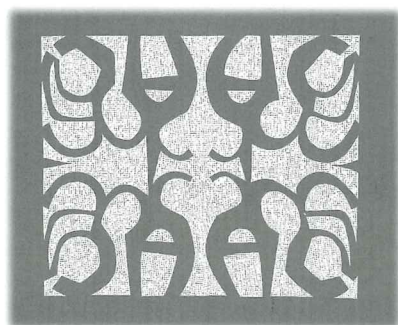


第20回 由利本荘美術展



由利本荘美術展略史

【前身の本荘由利選抜美術展】

・平成2年8月10日、旧本荘市の主催で「本荘由利芸術文化展懇談会」が開催され、旧本荘市、由利郡域の美術作家らによる想像性豊かな作品の発表と芸術文化の向上を目標に、絵画、書道、写真、工芸の各分野から選出された実行委員会が設けられた。

・実行委員会において、名称を「本荘由利選抜美術展」とし、第1回展を平成3年1月12日から16日までの5日間、勤労青少年ホーム（美倉町）を会場に開催した。出品数は絵画18点、書道27点、工芸4点、写真15点の計64点であった。

・第11回展（平成12年）からは名称を「本荘由利美術展」とし、第13回展からは規模を拡大し作品の充実を図るため、会場に本荘文化会館を加え、平成16年まで続けた。

【由利本荘市誕生を契機に由利本荘美術展へ】

・平成17年3月の由利本荘市誕生により、主催が由利本荘市教育委員会となり、この年から名称を変更し、「第

1回由利本荘美術展」（平成17年10月）として新たな出発を果たす。

・展示だけではなく、第5回展（平成21年）では揮毫会、第6回展（平成22年）では日本画（水墨画）の指導と実演が行われるなど、新たな魅力の向上に努めてきた。

【新しい会場 由利本荘市文化交流館「カダーレ」】

・平成23年12月に由利本荘市文化交流館「カダーレ」（東町）が開館したことにより、20年余り会場となってきた勤労青少年ホームおよび本荘文化会館を離れ、カダーレのギャラリーを会場に第7回展（平成24年1月）を開催し、今日に至っている。

・最初の本荘由利選抜美術展開催以来、会場や開催時期の変更はあったものの、実行委員会体制、基本理念はほぼ不変のまま、地域の美術作家の創作意欲の高揚とレベルアップ、そして地域住民の芸術への関心を高めることを目的に継続され、第15回由利本荘美術展（令和2年2月）で記念すべき通算30回を数えた。



令和7年2月1日(土)～2月5日(水)

午前9時～午後5時 [2月5日は午後4時まで]

由利本荘市文化交流館「カダーレ」ギャラリー

主催／由利本荘市・由利本荘美術展実行委員会

後援／にかほ市教育委員会・由利本荘市芸術文化協会連合会

秋田魁新報社・読売新聞秋田支局・朝日新聞秋田総局・毎日新聞秋田支局

NHK秋田放送局・ABS秋田放送・AKT秋田テレビ・AAB秋田朝日放送

由利本荘美術展へようこそ

由利本荘美術展実行委員会 実行委員長
由利本荘市観光文化スポーツ部長

今 野 和 司

『第20回由利本荘美術展』にご来場いただき、誠にありがとうございます。

前身にあたる『本荘由利選抜美術展』を平成3年に開催して以来、芸術文化の力を結集し毎年継続されてきた本美術展は、地域の方々に長らく親しまれてきました。地域の皆さまの芸術への高い関心や、積み重ねてこられた活動によって支えられ、本荘由利圏域の文化力向上における大きな柱の一つとなっております。

由利本荘の文化力を高める理想を掲げた本美術展が、地域の美術を身近に感じられる場として親しまれ、継続して開催できていることを嬉しく思うとともに、開催にあたりご尽力いただきました実行委員の皆さまをはじめ、出品いただきました皆さまには、心よりお礼申しあげます。

会場には、絵画、書道、工芸、写真の4部門において、にかほ市、由利本荘市を代表する116名の作家の作品が一堂に会しております。ご来場の皆さまには、多彩な作品との出会いをお楽しみいただければ嬉しく思います。どうぞごゆっくりとご鑑賞ください。

絵画部門

赤 川 祐 輝 (矢 島)	全	佐 藤 憲 男 (仁賀保)	春の句
秋 山 長 子 (矢 島)	夏の午後	佐 藤 紀 子 (象 潟)	春の夢 (月夜の桜)
岩 井 和 子 (仁賀保)	鳥海山	佐 藤 よう子 (本 荘)	古代の米
大須賀 勉 (本 荘)	白銀・鳥海山-	鈴 木 司 (本 荘)	冬をまとう
加賀谷 妙 子 (本 荘)	窓辺の薔薇	鈴 木 久 子 (西 目)	西目町の風景
潟 保 卓 雄 (西 目)	鳥海冬日	須 田 江美子 (象 潟)	紫陽花
加 藤 新 市 (本 荘)	木洩れ日	高 山 恭 子 (本 荘)	錦秋
小 松 美枝子 (本 荘)	今は無き故郷	戸 蒔 光 子 (仁賀保)	異国の街
今 野 和 子 (本 荘)	凜として	畠 山 紘 一 (仁賀保)	櫛 (あがりこ大王)
斎 藤 良 子 (仁賀保)	街にかほ	三 浦 久美子 (大 内)	バラと藤ツルとりんごと
佐々木 清 (本 荘)	「静かなる動き」	三 浦 弘 美 (本 荘)	万里
佐 藤 絵 美 (本 荘)	Babel	森 本 マ ヤ (仁賀保)	慟哭
佐 藤 寛 季 (本 荘)	釜磯海岸	横 山 政 昭 (象 潟)	冬…牙を剥く日本海 (小砂川)

書道部門

会 津 千寿子 (本 荘)	祈りの心	大須賀 青 玉 (仁賀保)	釈迦空の歌
秋 山 由美子 (矢 島)	鶏二の句	岡 本 真貴子 (本 荘)	神秘の空間
阿 部 清 楓 (本 荘)	野崎博生 詩	小笠原 十 駕 (大 内)	仏法僧寶
安 倍 青 珠 (仁賀保)	梅内美華子の歌	工 藤 由紀子 (本 荘)	山頭火の句
安 倍 波音子 (仁賀保)	加賀千代女の句	熊 谷 貞 子 (本 荘)	無稽之言勿聴
伊 藤 勁 草 (岩 城)	元好問詩	齋 藤 翠 香 (象 潟)	いのちの歌
伊 藤 清 子 (由 利)	種田山頭火の句	斎 藤 豊 華 (本 荘)	白楽天詩
植 田 清 寛 (本 荘)	川崎勝信	齋 藤 豊 翠 (本 荘)	蔣廷秀詩
打 矢 博 子 (本 荘)	水原秋桜子の句	佐々木 鋭 一 (大 内)	「亀上半歌蓮」

佐々木 幸 子 (大 内)	荒井由実の詞
佐 藤 敏 子 (由 利)	無限の風
佐 藤 直 哉 (金 浦)	農者興徳
鈴 木 洸 舟 (象 潟)	白居易詩 長恨歌節
鈴 木 民 雄 (本 荘)	民謡年豊
竹 内 美 穂 (象 潟)	息吹
津 島 一 美 (岩 城)	王績詩 野望
畑 中 裕 子 (由 利)	中村草田男

藤 原 豊 道 (本 荘)	太宗句
宝 池 貞 子 (西 目)	西島麦南の句
星 川 草 春 (大 内)	張黒女墓誌銘の一節
星 川 裕 子 (大 内)	稟靈亀之修壽
堀 井 直 子 (大 内)	米津玄師の詩
三 浦 豊 湖 (岩 城)	杜審言
横 山 和 萩 (本 荘)	雪中の鷺

工芸部門

青 木 清 子 (仁賀保)	天鷲ぜんまい織	今 野 矩 子 (本 荘)	バイオレットチューリップ
阿 部 登志子 (本 荘)	紅梅	佐々木 イサム (象 潟)	森のうた
伊 藤 成 行 (岩 城)	雲海 (花びん)	佐々木 千恵子 (本 荘)	雨とアジサイ
小 川 もと子 (本 荘)	水のあるところNo.2	佐々木 弘 子 (本・蠟山)	新緑の里
小 野 利 彦 (東由利)	十五の春	佐々木 ひろ子 (本・山・瀬)	どよめき
小 野 信 子 (東由利)	古希	佐 藤 久美子 (本 荘)	玉手箱
加 川 信 子 (西 目)	初春	佐 藤 咲 夫 (本 荘)	樺文箱
菊 地 志保子 (本 荘)	つむじ風	佐 藤 美也子 (矢 島)	夢幻
熊 木 雲 舟 (象 潟)	盲心経 (タペストリー)	須 田 敦 子 (東由利)	手籠 木の実拾い
栗 城 亮 子 (本 荘)	大輪	高 橋 由美子 (本 荘)	練込み銘々皿 (八角形)
小 林 貴 子 (本 荘)	正絹紗地 友禅染 夏袋帯	田 口 多喜子 (本 荘)	釉彩椿紋鉢
小 林 昌 夫 (本 荘)	正絹写し糊染・染額 阿修羅像	土 田 いせ子 (矢 島)	初冠雪
小 松 富士雄 (仁賀保)	あがりこの大王たち	古 木 保 雄 (本 荘)	灰釉紫陽花紋組皿

写真部門

秋 山 幸 子 (本 荘)	田水張る	佐々木 正 美 (本 荘)	珍客
阿 部 重 助 (東由利)	春	佐 藤 繁 (仁賀保)	チャンス
五十嵐 幸 二 (象 潟)	にじいろ	佐 藤 拓 自 (本 荘)	笑顔の鉄砲隊
岩 井 敏 一 (仁賀保)	光彩	繁 野 正 俱 (本 荘)	生命力
鎌 田 淳 一 (岩 城)	奉納	荘 司 昭 夫 (西 目)	桂の巨木
菊 地 英 子 (大 内)	地藏尊大祭の日	鈴 木 生 喜 (本 荘)	煌めく浜辺
菊 地 弘 (大 内)	森が眠る	須 藤 秋 男 (本 荘)	雲さわぐ鳥海山
菊 地 光 男 (仁賀保)	出漁準備	須 藤 勝 (仁賀保)	踊る春炎
木 村 雅 之 (本 荘)	夜空のアート	高 橋 哲 広 (大 内)	潮騒の妖精
小 松 芳 春 (仁賀保)	霧漂う	高 山 明 (本 荘)	来訪神 降臨
金 道 博 (象 潟)	夏の始まり	竹 中 京 二 (本 荘)	清流
今 野 清 美 (仁賀保)	プロ冒険家 阿部雅龍さん	増 村 均 (仁賀保)	黄金の羽根で出発
齋 藤 悟 (本 荘)	光臨に染まる英虞湾	宮 田 征 文 (本 荘)	小春日の鳥海山
齋 藤 久 (西 目)	結ぶ	柳 橋 久 (本 荘)	ロマンス
齋 藤 久義 (本 荘)	福を呼ぶ	和 田 昭 男 (本 荘)	雪の中の羅漢像
櫻 庭 一 二 (本 荘)	秋色		